

東京都生物教育研究会

団体の概要

東京都の高等学校の教員を中心に、816名の会員からなり、生物教育の充実を図るとともに、教員相互の情報交換を活性化するため、部・委員会に組織を分担し、九つの支部に分かれて活動を実施している。総会と連携研修を年に1回、研究部の研修会を毎月1回、各支部の研修会を年に2回、教材開発委員会・生態学教育委員会・海洋生物研究委員会・教育課程委員会の各委員会主催の研修会を年に2回実施と、活発に活動しており、活動記録は都生研会誌として発行している。また、毎年、日本生物教育会や日本生物教育学会等における全国大会での発表を行うとともに、全国の生物教育研究会との連携も定期的に行い、日本の生物教育の向上を目指して活動している。

研究テーマ

主体的・対話的で深い学びへとつながる、授業で行う探究活動の指導法の研究

研究のねらい

生徒の主体的・対話的で深い学びの実践に向け、授業で行う理科の見方・考え方を活用した探究活動の指導力、多様な校種及び生徒の実態に合わせた展開・汎用力を向上する。

研究の内容

教材開発、フィールド調査、実験講習、研究協議会等、年間20回以上の研修会企画、大学や国立科学博物館などの研究機関との連携による教材開発、高大連携研修、及び最新研究講演会の開催を通し、教員の指導力向上につなげる。

研修会一覧(活動報告)

日付・テーマ・参加人数(対面「対」、オンライン「オ」)
・講師(都立教諭以外の場合のみ記載)

【全体総会】

10/10 都生研総会(写真1) 対18名、オ28名
記念講演「ウイルス感染を阻害するタンパク質の理論的設計」
講師：新井 宗仁 教授(東京大学)

【5・6支部】支部総会をオンラインで開催

【多摩支部】

12/12 シダ植物を中心とした植生観察会
及びムササビ観察会
1/16 多摩川の冬鳥の観察会
11/10 蛍光染色による細胞骨格の観察



写真1 都生研総会の様子

【研究部】

・研究協議会

10/17 第1回「生物基礎での植物の特徴を見分ける生徒実習」対10名
10/21 第2回「ブタの頭部を用いた脳・耳・眼球の観察」対18名
10/24 第3回「オンライン授業の実践事例紹介、工夫点」対9名
11/7 第4回「教材生物の飼育及び活用法」対4名、オ10名
11/13 第5回「ホヤ胚の観察から発生と進化を学ぶ生徒実習」対16名
11/14 第6回「生物室の実験機材・教材生物を活用した授業実践」オ5名
11/28 第7回「生物室の実験機材・教材生物を活用した授業実践」オ6名
1/19 第8回「ブタの内臓を活用した授業実践」
1/23 第9回「ブタの胎児を活用した授業実践」
2/28 第10回「令和4年度施行学習指導要領に向けた授業改善と教科書の活用」
主体的・対話的で深い学びへ向けて」

3/29 第11回研究協議会「評価及び考查試験を活用した授業改善」
・国立科学博物館と都生研の共同教材開発研究「COSMOS」オンライン開催

・教育課程委員会主催・社会連携委員会共催研修会

6/28「新しい生活様式における生物教育～時間減にどう対応するか」オ90名
・生態学教育研究委員会研修会
7/17「アフリカの自然と農業 ～生物教諭が青年海外協力隊で学んだ事～」オ33名
12/20「人と野生動物の関係を考える」

・海洋生物研究委員会主催

9/20「三番瀬を活用したフィールドワークの可能性」対7名

【他団体との共催企画】

・山梨県高等学校教育研究会生物分科会・東京都生物教育研究会・日本人類学会人類普及委員会共催 11/28「古人骨からみた病気と社会」オンライン研修会 オ52名

【全国大会関係】

1/9、1/10 日本生物教育学会第105回栃木大会@オンライン

【連携研修】

8/18 午前、午後の計2回実施
理科I(中・高・特)「探究活動の進め方 クロロフィル蛍光測定を例にして」対29名
講師：園池 公毅 教授(早稲田大学)

研究の成果と課題

◆研究の成果

・実施した研修会

オンライン研修会 計13回
感染予防対策をとった上での対面研修会 計10回

・参加者

オンライン参加 計224名
対面参加 計108名
(オンラインでは育休中の教員を含む)

・連携研修における受講者アンケート

(アンケートは東京都教職員研修センターで用意いただいたもので、4点満点で集計したものである)

研修満足度	平均 3.58
研修理解度	平均 3.62
研修活力度	平均 3.52

主な理由

- ・自らの授業改善に役立てたい 88.89%
- ・更に自己啓発を行いたい 48.15%
- ・校内で他の教員に伝えたい 29.63%

・【研究部】研修参加者アンケート

(第4回研究協議会の結果のみ記載する)

参加者の参加目的

「教材生物の飼育のコツを学びたかった。」
「ゾウリムシやミドリムシなど、実物を見たことがなかったので、授業への取り入れ方を知りたかったから。」
「中堅教諭研修の異業種交流のため。」
参加者が得たこと、生かしたいこと
「ゾウリムシの観察で捕食のアイデアをいただいたので実践したい。」
「『分からない』を教員自身が楽しむという姿勢。」

研修満足度	100%
-------	------

◆課題

・研修中の協議において、対面型の研修は、オンライン型の研修に比べて、他者との距離等に配慮する必要があり、十分に行うことができなかった。一方で、オンライン型の研修は、育休や遠隔地の教員も参加できる等の利点があると分かった。研修形態を工夫して、研修の充実を図ることが課題である。

今後の予定

引き続き12月～3月に10の研修会を実施予定であり、今年度の都生研会誌の編集・発行を行う。また、来年度の研修会の企画準備と同時に、令和6年度東京にて実施予定の日本生物教育会全国大会に向けて、研修会の充実及び高大連携、教員同士のつながりを発展、維持していく。

代表者連絡先

代表・会長 都立東大和高等学校 校長 山崎 仁

事務局

都立小石川中等教育学校 教諭 佐野 寛子
Hiroko_Sano@education.metro.tokyo.jp